

みやま市子ども読書活動推進計画

第1章 計画改訂にあたって

1 子どもの読書活動推進の意義

子どもの読書離れが危惧されるなか、国においては平成13年12月、「子どもの読書活動の推進に関する法律」(※1)を制定し読書を通じて子どもの健やかな成長を図ることとしました。これを受け、福岡県では平成16年2月に「福岡県子ども読書推進計画」を策定し、本市でも平成21年3月に「みやま市子ども読書活動推進計画」を策定して子どもの読書活動推進の基本方針を定めました。

読書を通じて得られるものは様々であり、子どもが言葉を学び、感性を磨き、理解可能な世界を広げ、また自分を見つめる力を育むなど、その効果は多方面にわたります。

国立青少年教育振興機構が平成25年2月に発表した「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究 報告書」によれば、子どもに読書活動が多い大人ほど、未来志向や社会性などの意識や能力が高く、また中高生にも同様の傾向が見られ、子ども時代の読書が豊かな人生と密接に関係していることが報告されています。

また、成人を対象とした調査では、子どもに読書活動が多い大人ほど、「未来志向」「社会性」「自己決定」「意欲・関心」「文化的作法・教養」「市民性」のすべてにおいて、現在の意識や能力が高いという結果が示され、特に就学前から小学校低学年の「家族から昔話を聞いた」「本や絵本の読み聞かせをしてもらった」「絵本を読んだ」といった読書活動と、成人の「文化的作法・教養」との関係が強い傾向にあったことが報告されています。

読書は子どもの成長の栄養素であり、読書習慣を身に付けることは一生の財産として生きる力となり、楽しみの基ともなるものです。

このため、読書環境を整え読書活動を推進することは子どもの将来にとって、とても重要な取組といえます。

2 子どもの読書活動の現状

2015年の第61回学校読書調査(全国学校図書館協議会・毎日新聞社)によれば、1カ月の平均読書冊数については小学生が11.2冊と、昨年より0.2冊減少しましたが、過去2位の高水準となりました。過去のデータを見ると、増加傾向にあり、学校における一斉読書や地域の読書ボランティア活動などの成果が表れたものと思われます。

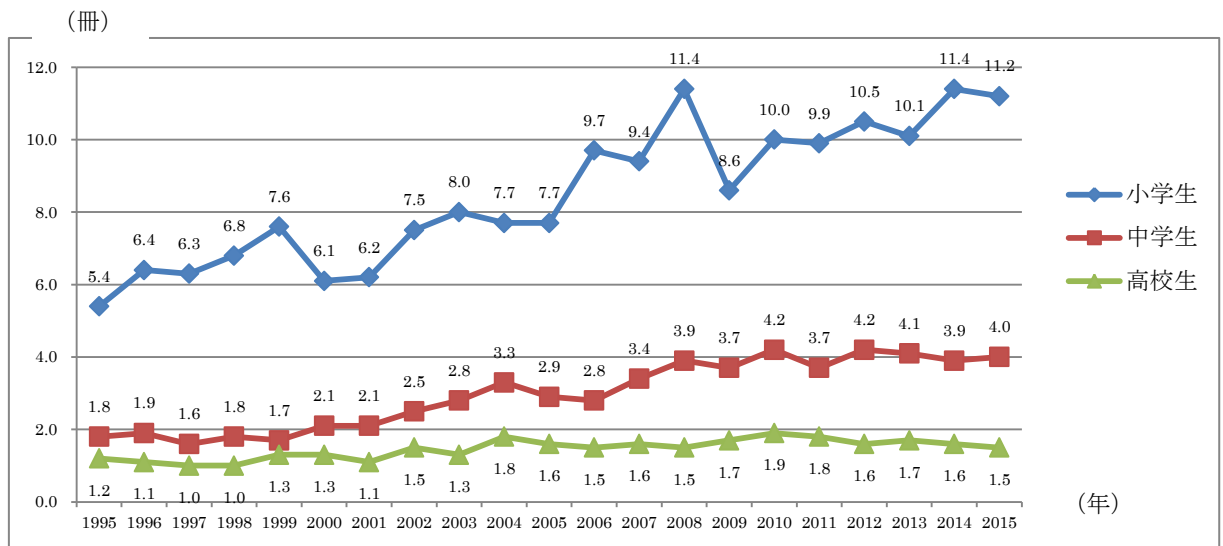
中学生は4.0冊と2012年のピーク時から幾分減少しましたが、近年は横ばいの状況といえます。高校生の読書冊数はここ数年微減傾向が続き、小学生から中学生、高校生になるにつれ、読書冊数は減少しています。(資料1)

また、1カ月に1冊の本も読まなかった不読者の割合は小学生が4.8%で、多少の増減は見られますが、近年、ほぼ横ばいに推移しています。

中学生の不読者の率は1.6ポイント減少し若干の改善が見られますが、高校生は3.2ポイント上昇して51.9%となり、半数近くが1カ月に1冊の本も読んでいない状況は依然として改善されていません。(資料2) 高校生になると読書は全く個人の自由になり、部活動をしたり、スマートフォンでゲームやLINEの交信に費やす時間が増えたりしていることも影響していると思われます。

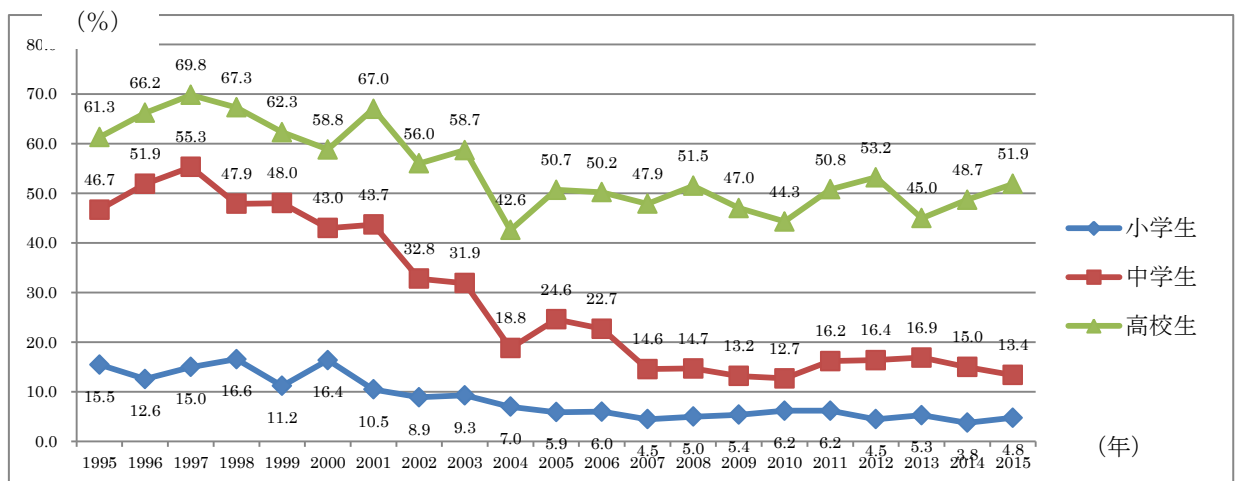
平均読書冊数の推移

学校読書調査より (資料1)



不読者の推移

学校読書調査より (資料2)



本計画の策定に当たりみやま市が行った読書活動アンケートと学校読書調査を比較すると、2008年の前回調査では平均読書冊数において本市の小学生は少なく、中学生と高校生は全国平均を上回っています。不読者の割合はいずれの校種においてもみやま市は全国に比して少なく、高校生においてはその低さは特に顕著というよい傾向でした。

2015年の調査結果で比較すると、平均読書冊数において小学生は全国より3.5冊少なく、中学、高校生においては全国に比して多い結果となり前回調査と同じ状況となっています。

本市の2008年と2015年の調査結果から、1カ月の平均読書冊数については大きな変化は見られませんが、不読者の割合がいずれの校種においても顕著に増大して全国との差が縮まったという残念な結果に注意が必要で、活字離れの進行が懸念されます。(資料3)

<課題>

- ・ 1ヶ月の平均読書冊数
- ・ 1ヶ月に1冊の本も読まなかった不読者の割合

(資料3)

みやま市の読書冊数等の状況(全国対比)

調査項目		小4～小6		中学生		高校生	
		2008年	2015年	2008年	2015年	2008年	2015年
一カ月の平均 読書冊数 (冊)	みやま市	7.5	7.7	4.2	4.1	2.5	2.4
	全国	11.4	11.2	3.9	4.0	1.5	1.5
一カ月のうち一冊も 本を読まなかった人の 割合 (%)	みやま市	1.8	3.3	3.6	12.4	13	20.9
	全国	5.0	4.8	14.7	13.4	51.5	51.9

全国:学校読書調査 みやま市:読書活動アンケート

第2章 第1次計画の取組状況

1 第1次計画の基本方針

平成21年3月に策定した第1次計画においては、「1 家庭・地域・学校における子どもの読書活動の推進、 2 子どもの読書活動推進のための施設・設備等諸条件の整備・充実、 3 子どもの読書活動に関する理解と関心を深めるための啓発」の三つを基本方針に掲げ、その具体化を図るため、①家庭・地域 ②幼稚園・保育園 ③学校 ④市立図書館の各区域において子どもの読書環境の整備に努めてきました。

2 基本方針に掲げた事業の取組状況と課題

(1) 家庭・地域・学校における子どもの読書活動の推進

平成21年度以降の児童書の貸出冊数の推移を見ると、児童書の貸出冊数は平成21年度と平成26年度を比較すると児童図書が8.0%増加した一方で、絵本は逆に8.0%の減少となりました。(資料4)

市立図書館統計より (資料4)

児童書の貸出冊数の推移

区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	伸び率
児童図書	25,111	25,588	24,354	24,931	26,593	27,119	8.0
絵本	37,202	36,333	31,866	30,318	30,465	34,237	-8.0

幼少期における読書活動の中心となる読み聞かせや朝(昼)読書については、幼稚園・保育園、認定こども園においては日課にほぼ組み込まれている状況であり、前計画調査時の読書活動アンケート結果と比較すると全体として開催数は増加しています。また小学校においても頻度にばらつきはあるものの、活動の定着化が伺えます。(資料5-1、資料5-2)

その一方で、保護者へのアンケート結果を見ると、子どもへの読み聞かせの経験について、「よくある」と「時々ある」と答えた人の割合は幼稚園・保育園の保護者と小学生の保護者のいずれも前計画調査時より減少し、家庭での読み聞かせ活動は低下している状況です。市立図書館では乳幼児期における家庭での読み聞かせを推進するため、ブックスタート類似事業に取り組むとともに、平成27年度からはブックスタート(※2)事業を開始しました。

また、学校においては全小中学校で「子ども読書の日」(※3)や読書週間(※4)・月間を設け、読書集会などの本の楽しさを広げる活動を行っています。その他一斉読書活動(※5)や読書ボランティアによる読み聞かせにより本の魅力の浸透を図ったり、図書館資料の学校セット配本(※6)活用による調べ学習を教育課程に組み込んだりして図書館教育の充

実を図ってきました。学校と教育委員会の連携の面においては、学校図書館協議会や学校司書部会での情報交換を密にし、図書資料の活用や運営の充実に努めてきました。

市立図書館においては読書ボランティアの協力により、土曜日の館内でのおはなし会や夏休み及び冬休み期間中における放課後児童クラブへの館外読み聞かせを行いました。しかしながら、市立図書館でのおはなし会は回数、参加者ともに減少傾向にあり、特に平成24年度以降の子どもの参加者が急減していることは留意すべき事項です。(資料6) また、学校セット配本については活用に乏しいところがあったので、平成27年度に課題をもとにセット内容の見直し、配本・回収の実施の改善を行いました。十分な活用には至っていません。

今後魅力あるおはなし会にするための工夫やセット配本の対象者等の見直しを行うとともに、積極的なPR活動に努める必要があります。

- <課題>
- ・家庭での読み聞かせ活動の啓発
 - ・学校間や市立の図書館におけるネットワークによる図書資料の活用
 - ・「本を読むことが好き」を増やす魅力あるおはなし会の工夫

読み聞かせ等の読書活動 2015年読書活動アンケートより

幼稚園・保育所 認定こども園	有	無	回数					(資料5-1)
			毎日	週5	週4	週3~4	週1	
			17	0	11	1	3	

学 校	有	無	回数										
			毎日	月2	月1	年10	年9	年6	年5	年2	年1	不定	
			小学校	15	0	1	3	4	1	1	2	1	1
中学校	2	2									2		
高校	1											1	

朝(昼)読書 2015年読書活動アンケートより

幼稚園・保育所 認定こども園	有	無	回数						(資料5-2)
			毎日	週5	週4	週3	週2~3	週1	
			11	6	5	2	1	1	

学 校	有	無	回数									
			毎日	週4	週3	週2~3	週2	週1	月3	年2	年1	その他
			小学校	15	0	7	3	1		1	1	1
中学校	3	1	2			1						
高校	1	0	1									

※「その他」は、1学期までは毎日、2学期から月2回

市立図書館統計より (資料6)

おはなし会開催状況 3館合計

年度		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
回数		72	77	70	68	64	69
参加者	大人	223	289	221	176	152	141
	子ども	477	603	628	387	399	314

(2) 子どもの読書活動推進のための施設・設備等諸条件の整備・充実

平成21年度以降の市立図書館の蔵書数の推移は(資料7)の表に示すとおりであり、平成26年度末の蔵書合計は231,255点で、計画初年度の平成21年度に比較すると13.2%の増加となっています。蔵書に占める児童図書比率も徐々に増加し、蔵書数においてもこの5年間で5.4%の伸びとなるなど、資料の増加、特に児童図書の充実を図ってきました。

施設・設備面では、本市の図書館は瀬高、山川、高田の3館とも比較的新しく、当面新設の必要はありませんが、トイレや授乳室など乳幼児に対応した設備では改善が望まれます。

読書活動充実に関わる割合として「図書館資料2割、施設設備1割、職員7割」という提示があります。そのため、人と本などの資料をつなぐ重要な役割をもつ職員として、館内での研修だけでなく、県立図書館等における研修参加を位置づけ、職員の資質向上を図ってきました。

一方、学校図書館については図書購入の予算確保に努め、蔵書数は各学校とも標準冊数を満たしていますが、今後は子どもの多様なニーズに対応した資料の整備が必要です。

施設・設備面では、読書センターと情報センターの両面の役割を持つ図書館として、図書資料と情報機器の配置、効果的な活用につながる図書資料の選書、関連させた資料配架等の工夫を行い、子どもの情報活用能力育成の土台作りを進めているところです。

人的面では、市内全小中学校に資格をもつ専門的職員である学校司書を配置し、本を通して学ぶ楽しさへの支援を各校の実態に合わせて行っています。また、教育事務所や学校図書館協議会等への参加による研修や学校司書部会における年数回の共同研修を積み重ねています。そして、小中学校合同や九州大会等における実践発表など多様な研修で、資質を高めてきました。今後、さらに、教育課程の理解をもとに授業実践に関わり読書活動を広げるために、司書教諭(図書館教育担当者)との連携や焦点化した研修を計画していくことが求められています。

- <課題>
- ・乳幼児など幅広い層が集う図書館としての施設・設備の改善
 - ・情報化への対応
 - ・司書のさらなる資質向上

市立図書館統計より (資料7)

蔵書構成の推移(三館合計)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	伸び率 %
一般図書	141,546	147,135	151,411	156,756	158,023	160,543	13.4
児童図書	38,860	40,715	42,161	43,780	45,200	46,376	19.3
団体図書	2,696	3,397	3,762	3,762	3,754	3,316	23.0
雑誌	14,841	14,800	14,724	14,671	14,703	14,684	-1.1
AV	7,175	7,331	7,706	7,924	7,350	7,336	2.2
合計	205,118	213,378	219,764	226,893	229,030	232,255	13.2
児童図書の比率	18.9	19.1	19.2	19.3	19.7	20.0	5.4

(3) 子どもの読書活動に関する理解と関心を深めるための啓発

家庭や地域においては、PTAや支館による研修会、地区公民館に設置した文庫棚や本コーナー、支館便りによる新刊書の紹介、アンビシャス広場における読書体験などを通して、啓発を積極的に進めている活動が見られるようになっていきます。子育て関係機関の一つである「つ

どいの広場」においても、いつでも本に手を伸ばせる場づくりや親子講座を計画的に進めています。このように、活動紹介の場を設定したり、連携しながら子ども達に関わっていったりすることで、活動団体をなお一層広げていくことが「読書のまち」づくりにつながるといえます。

幼稚園や保育園、認定こども園（以下、「園」という）や学校では、読み聞かせの楽しさを伝える研修会や活動を、日常に、強調期間において実施して読書への理解を深める啓発を行ってきました。読書の習慣化を図るために、「家読（うちどく）」という家庭読書を進めている学校も数校出てきました。本への関心を高めて活発な読書活動にするには、子どもや保護者、家族を引き付ける魅力ある図書館づくり、図書コーナーが必要です。その一環として、園や学校では、図書館（読書）まつりや七夕、クリスマスなどの季節おはなし行事を開催しています。

市立図書館では、季節おはなし行事とともに、夏休みの課題支援である読書感想文・感想画や小学生読書リーダーの講座を開講して、本と子どもを結ぶ場を設定しています。また、毎月1回日曜日には、幅広い分野の本に出会うことを願って、図書館ボランティアによる花や音楽、絵画、写真などのミニライブの開催と関連図書の紹介を行ってきました。

読書活動の啓発にとって、各地域、園や学校、市立図書館のボランティアとして関わる人材の貢献度は多大なものです。地域人材を中心に読み聞かせや子どもの読書ボランティア活動の指導にあたってくださったり、保護者を中心に園や学校の読み聞かせ活動を行ったりしてくださる多様な人材によって、子どもの読書環境が築かれています。その上、想像力を豊かにする絵本の読み聞かせだけでなく、科学絵本を取り入れた活動をするという方針を出しているボランティアグループや小学校5年生の総合的な学習の時間に郷土の文化人、與田準一の生き方と作品の紹介を行っているボランティアグループなど、読書活動支援にも各グループの特色がみられるようになってきました。しかし、校区単位の学校ボランティア活動が充実してきた反面、市立図書館のボランティア団体数の減少や構成メンバーの高齢化傾向が懸念されるなどの課題もでています。

さらに、啓発を確かにするためには、読書活動の理解を深めるための発信方法の効果が大きく関わってきます。各校の図書館便りや市立図書館の広報に設けた「図書館通信」欄、ホームページが主なものです。ここでは、新着図書や特設コーナーの紹介やイベント情報の発信に努めてきました。しかし、現状として、イベント、講座の参加者が少なく、来館者の満足度アンケート「満足・ふつう・不満」で「ふつう」評価が多いという結果になっているのは、広報・啓発活動の不十分さの表れだと捉えています。その他の啓発活動として、市立図書館では園児の図書閲覧の勧めや小学生の図書館見学、中学・高校生の職場体験の受け入れによって、体験を通じた理解を進めてきました。

今後、子どもを対象とした魅力あるイベント・講座等を通じて図書館利用者の拡大を図ったり、ボランティアを育成したりして、読書活動の活性化に努めていくことが重要です。

- <課題>
- ・ イベント等への参加や活発な読書活動につながる広報
 - ・ 活動をつなぐボランティアの育成

第3章 計画改訂の基本的な考え方

1 子どもの成長過程と読書

本との最初の出合いは乳児期にあります。この時期、保護者が行う読み聞かせにより子ども

は言葉を覚え、スキンシップや楽しい読書の時間を共有することによって親子の絆を深めます。

幼児期になると、多くの子が幼稚園や保育園、認定こども園に通うようになります。集団生活を経験することにより自己を意識し、言葉の発達が進む時期であり、絵本にも好みが生じ読書への関心が深まっていきます。

小学生になると、学校教育の中で読書を体験した子ども達は、好奇心に応じて夢や想像力を育みます。読書は「語彙が増える」「表現力が豊かになる」「読解力が付く」など多くの効果があり、特に、読解力は小学生から身に付けたい能力で学力アップだけでなく、人の気持ちがわかる共感力や人間関係におけるコミュニケーション能力を高める効果があるとされています。

中学生から高校生へと成長する過程は、思春期を迎える時期であり、大人への過渡期となるこの時期には不読者が増えるなど、本への接し方も個人により大きく分かれてきます。しかし同時に物事への関心が深まり、かつ具体的となり、高度な知識を習得したいという欲求も強くなっていく時期であり、これらを満足させる読書環境を整えていくことが大切です。

みやま市の小中学校では、子ども達が「みやまの力（知恵・社会性・健康・挑戦力）」（※7）を身に付けるために、裾野教育（※8）を実践しています。知恵や心育ての土台となるものとして図書館教育を位置づけ、読書の量と質を高める読書力や情報活用能力の向上を目標に本などを通してチャレンジ体験を各学校で計画しています。つまり、読書は文学作品を読むだけでなく、様々なジャンルの本を読んで幅広い知識を求めたり、課題解決のために情報を収集・活用して解決行動につなぐものという広い観点で捉えています。このような取組では、自分の日常生活を豊かにし、自分の夢に近づく読書を自ら行い習慣化する子どもが育つと考えています。そのために、子どもの発達段階や個々の興味関心を重視した支援や環境づくりを市民みんなで取り組んでいくことが必要です。

2 計画の目的

本計画は、子どもが夢を抱き、興味関心や発達段階に応じた多くの本と出会い、本に親しみ、自主的な読書活動を行えるよう手助けをし子ども達の成長を支えていくことを目的とします。

3 計画の位置づけ

今回策定する「みやま市子ども読書活動推進計画」は平成20年度に策定した計画の成果と課題を踏まえ、「子どもの読書活動の推進に関する法律」、国や福岡県の基本的な計画に基づき、みやま市における子どもの読書活動を推進する計画として改訂し策定するものです。

4 計画の目標

「本を読むことが好きな子ども」「夢を抱き、自分の日常生活を豊かにするための読書習慣をもつ子ども」を目標の姿として、子どもがそれぞれの発達段階・個性に応じて、自主的な読書活動を行えるような環境の整備を推進していきます。

5 計画の対象者

0歳からおおむね18歳以下の子どもとします。

6 計画の期間

平成28年度から平成32年度までの5年間とします。

みやま市子ども読書活動推進計画の関係機関等の役割

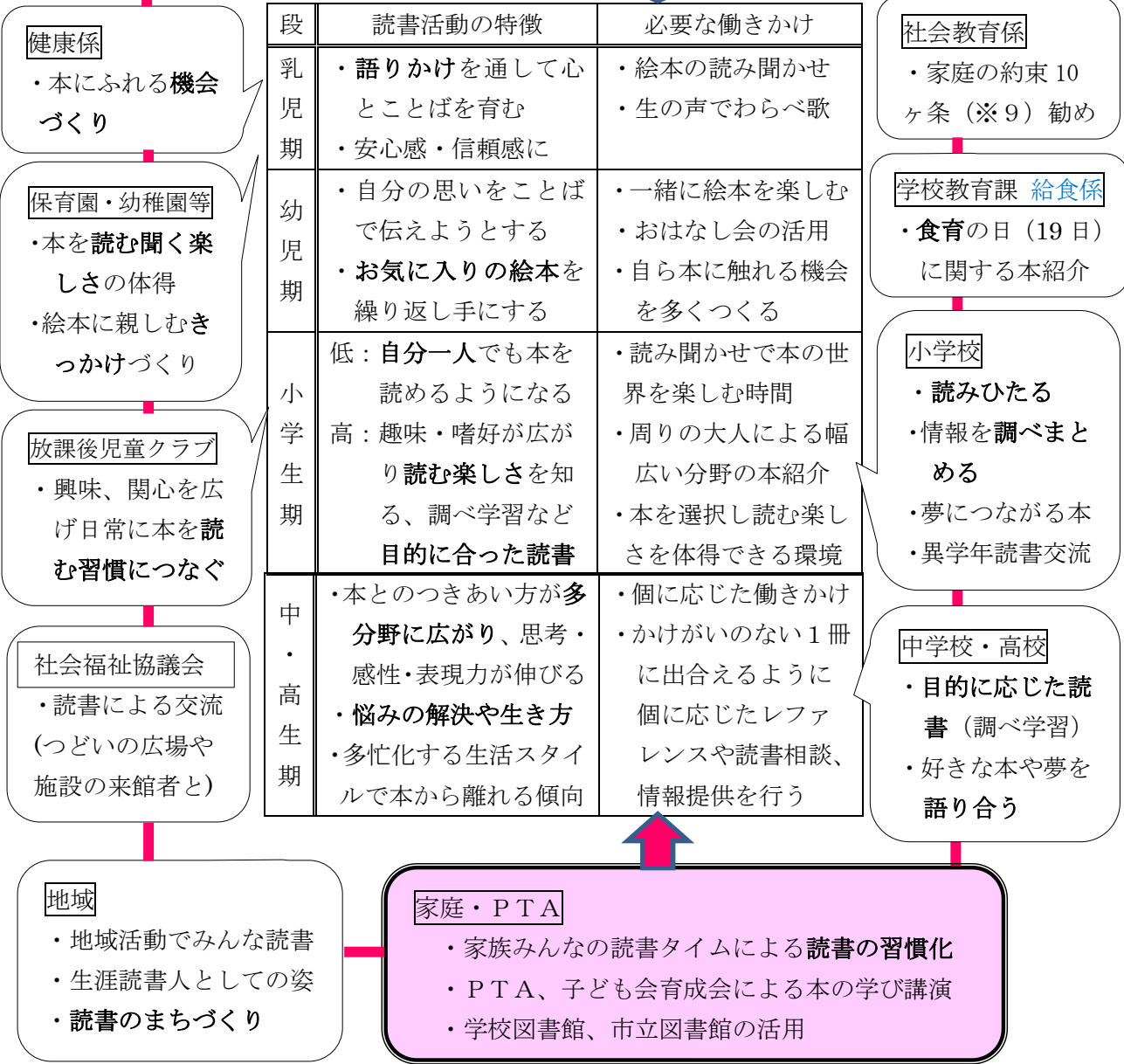
(資料8)

<目標の子どもの姿> 夢を抱き、自分の日常生活を豊かにするための読書習慣をもつ子ども

- <基本方針>
- 1 読書の楽しさにふれる — 発達段階等に応じた読書に親しむ機会づくり
 - 2 読書の大切さを知る — 読書活動に関する理解と関心の普及
 - 3 子どもの読書習慣を市民みんなで育てる — 読書環境の充実

市立図書館

- 1 家庭・地域、園・学校における読書の楽しさをつなぐ
- 2 読書活動への理解と関心を高めるために発信方法を工夫する
- 3 読書習慣に結ぶための関係機関等の連携・協力をまとめる



7 計画推進の基本方針

子どもの読書活動を推進するため、三つの基本方針を掲げ、その推進に努めます。

(1) 基本方針1：読書の楽しさにふれる — 発達段階に応じた読書に親しむ機会づくり

子どもが読書の楽しさにふれるためには、発達段階に応じて、それぞれの興味や関心を尊重しながら、自然に本にふれ読書に親しむ機会をつくるのが大切です。本との楽しい出会いを通じて、子どもが自主的に読書する習慣を身に付けるとともに、情報を収集・活用して課題解決を行う姿になります。そのために、家庭・地域、園や学校、関係機関等が果たすべき役割を明らかにして（資料8）、乳幼児期から学校教育期の発達段階・個性に応じた多様な読書活動が展開できるように支援します。

(2) 基本方針2：読書の大切さを知る — 読書活動に関する理解と関心の普及

子どもの自主的な読書活動を推進するためには、読書の意義や重要性について理解し関心を高め、市民みんなで読書を楽しむ雰囲気をつくるのが大切です。市立図書館を核としてみやまの力の土台である「裾野教育」を担う関係機関や子どもの成長を支える方々とともに、「読書のまち」づくりの意識を高めるよう努めます。

(3) 基本方針3：子どもの読書習慣を市民みんなで育てる — 読書環境の充実

子どもの読書習慣を育てるには、家庭・地域、園や学校等においていつでも、どこでも読書に親しむ環境が必要です。子どもの読書に関わる機関や団体の特色を生かしながら、相互に連携・協力して「子どもがいつでも本に手を伸ばすことができる環境づくり」を進めます。

8 計画の指標（※10）

今回の改訂では、前計画の課題を受けて読書の量的増加だけでなく、「本を読むことが好き」という子どもの心情を大事にして、子どもが自主的に読書する習慣を身に付けるとともに、自分の夢に向かって読書活動を行い、自ら学び考え行動する力を育む環境をつくることを重視しています。このような質的面を捉えるためには、細かく進捗状況や成果を整理し改善していくことが重要です。そこで、基本方針の指標を設定し1年間のPDCAサイクル（※11）で取組を評価し改善していく運営とします。

方針対応	指標項目	基準値（H27年度）	目標値（H32年度）
基本方針 1	「本を読むことが好き」の割合（%） 小：4～6年 中：1～3年 大人：幼保育園と小1～3年保護者	小 37.6 中 33.5 大人 28.6	小 50.0 中 40.0 大人 40.0
基本方針 1	不読率：1ヶ月に1冊も本を読まない 子どもの割合（%）	小 3.3 中 12.4	小 2.0 中 10.0
基本方針 2	みやま市は「読書のまち」と感じる割合 （%）		子 60.0 大人 40.0
基本方針 3	学校の授業時間以外の読書が普段1日 当たり10分以下の子どもの割合（%）	小6 16.7 中3 13.3	小6 10.0 中3 10.0
基本方針 3	子どもの1ヶ月の平均読書冊数（冊）	小 7.7 中 4.1	小 10.0 中 4.5

- ・方針対応とは、該当項目を「計画推進の基本方針1～3」の各方針を重視した実践結果と捉える
- ・基準値：平成27年度読書活動アンケート結果、目標値：5年後（平成32年度）の達成希望数値
- ・4段目の指標項目の基準値：平成27年度全国学力・学習状況調査の結果より

9 計画の体系

基本方針1 読書の楽しさにふれる : 発達段階に応じた読書に親しむ機会づくり

- (1) 乳幼児期における読書活動の推進
- (2) 小学生期における読書活動の推進
- (3) 中学・高校生期における読書活動の推進

基本方針2 読書の大切さを知る : 読書活動に関する理解と関心の普及

- (1) 発信の工夫による普及

基本方針3 子どもの読書習慣を市民みんなで育てる : 読書環境の充実

- (1) 家庭・地域の読書環境の整備
- (2) 市立図書館の読書環境の整備
- (3) 園や学校の読書環境の整備
- (4) 関係機関・団体の連携・協力の推進
- (5) 計画の効果的な運営

第4章 計画推進のための方策

1 読書の楽しさにふれる : 発達段階に応じた読書に親しむ機会づくり

(1) 乳幼児期における読書活動の推進←絵本にふれる、聞く楽しさを体得する機会づくり

No.	取組名・実施時期等	取組内容	担当
1	ブックスタート事業 毎月第1木曜日	あたご苑での4ヶ月健診の時、親子が本を通して心をふれあう機会をつくるための絵本配付と読み聞かせ	市立図書館 健康づくり課 (健康係)
2	赤ちゃんおはなし会 本館：毎月第1土曜日	ブックスタートから日常につなぐ、親子(0歳)を対象とした読み聞かせ	市立図書館
3 新	赤ちゃん親子交流会 年2回	講師を招いて読み聞かせや選書等についての交流会	市立図書館
4	赤ちゃん親子講座 年1回以上	親子での読み聞かせや絵本に関する実践を伴う楽しい活動講座	社会教育係 社会福祉協議会
5	絵本の読み聞かせやおはなし会	園児の年齢等に応じた回数や時間で、読み聞かせや(行事+おはなし会)の実施	園
6	読書コーナーの設置	好きな本探しができるように、昔話や科学など多様な絵本のコーナー設置	園
7 新	セット配本や団体貸出の活用	セット配本や団体貸出を利用して行う読書コーナーの充実	市立図書館
8	おはなし会本館：毎週土 分館：毎月1回土	読書ボランティアや司書による想像する楽しさを味わう読み聞かせ	市立図書館
9 新	おすすめ絵本の紹介や貸出	年齢に応じた絵本リストの配布や展示による紹介	市立図書館

「No」の項目の「新」：平成28年度からの新規取組を示す
 記入のない項目：平成20年度からの継続及び拡大の取組

(2) 小学生期における読書活動の推進 ←読みひたる本、夢につながる本の紹介
情報を調べまとめる力付け、異学年読書交流

No.	取組名・実施時期等	取組内容	担当
1	朝（昼）読書 週1回以上	興味関心がある本の自由読書やテーマ読みをして読みひたる時間確保	学校
2	多様な人材による読書交流	教員、ボランティア、同学年・異学年の子ども同士の読み聞かせや読書会	
3 新	ファミリー読書（※12） 強調週間 年2回以上	ノーテレビとして家族の読書タイムを作り、本の話を通してコミュニケーションと読書の場設定	家庭、学校 市立図書館
4 新	学年や興味関心に応じた おすすめ100選	ファミリー読書や日常読書に活用しやすいおすすめ本のリスト作成	市立図書館 学校
5	調べ学習	担任と学校司書の連携による授業実践、司書教諭（図書館教育担当）と学校司書の連携による調べ学習の情報共有	学校
6	「子ども読書の日」、読書週間・月間における本との楽しい出会いづくり	ボランティアや図書委員による読み聞かせや読書ビンゴなどの読書意欲をつなぐ取組	
7	学校セット配本や団体貸出の活用	学校では並行読書や調べ学習に、放課後児童クラブでは興味関心の広がり活用できるようなセットづくり	市立図書館
8	各館やホームページに児童特設コーナーの設定 毎月数十冊	新しい本との出会いの機会づくりとして、司書によるテーマの設定とおすすめ本の選書、展示や掲載	
9	図書館の施設見学や與田準一記念館での学習	市立図書館の利用指導や郷土の文化人與田準一の生き方学習の支援	
10	読書リーダーレッスン 各校2年に1回	読書の楽しさを広げる講座を受講し、各学校や図書館での推進者育成	市立図書館 学校
11 新	読書感想文や感想画などの講座	本のおもしろさを絵や文で表現し読書の楽しさを新発見する機会づくり	市立図書館
12 新	食育に関する読書と調理	調理に関わる本の紹介や本に登場する料理の給食メニューの実施	市立図書館 学校給食係
13	館外おはなし会	ボランティアによる読み聞かせなどや本貸出による配本サービス	放課後児童クラブ 市立図書館

(3) 中学・高校生期における読書活動の推進 ←目的に応じた読書、語り合う

No.	取組名・実施時期等	取組内容	担当
1	朝（昼）読書 週1回以上	興味関心がある本の自由読書やテーマ読みで、本に読みひたる時間確保	学校

2	「子ども読書の日」、読書週間・月間における本との楽しい出会いづくり	ボランティアや図書委員による読み聞かせや読書リレーなどの読書意欲を高める場の設定	
3 新	調べ学習	学校司書による教科担任や生徒への学習の情報提供	学校
4	学校セット配本や団体貸出の活用	修学旅行やキャリア教育の実施等に合わせた図書資料の紹介	市立図書館 学校
5 新	生徒（ヤングアダルト）コーナーの活用	分類別利用希望のアンケート調査や興味関心を高めるためのポップ掲示や映画特集シリーズの配置	市立図書館
6 新	各中学校へのお楽しみ袋の貸出	自分では選ばないようなセット本に出合うわくわく感で関心を高めるために「テーマで選ぶお楽しみ袋」の準備	
7	市立図書館での職場体験	図書資料の活用につなぐ図書館司書の仕事体験の場提供	
8 新	好きな本を語り合おう	ビブリオバトルの方法を提示し、中学・高校生や大人と合同の「語ろう会」	

2 読書の大切さを知る : 読書活動に関する理解と関心の普及

(1) 発信の工夫による普及

子ども達が本と出会い、本に親しみを感じ、その結果として生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるならば、それは何物にも代えがたい個人の財産です。

市立図書館や学校図書館には多くの図書を所蔵しています。これらの本が多くの子どもの目にふれ、手にして読むことができるように、本と子どもの橋渡しをしていくことが大切です。読書習慣の形成のために、子どもの発達段階に応じた支援を学校やPTA、関連機関で連携を取り、研修会や講演会の開催や積極的な発信を行います。また、読書の重要性、読書が子どもに与える影響等についての広報・啓発に努め、「読書のまち」意識を高めます。

No.	取組名・実施時期等	取組内容	担当
1 新	特集記事掲載の広報「図書館通信」 年1回	家庭における読書の重要性を子ども読書の日（4/23）に合わせて特集掲載	市立図書館
2 新	子ども読書活動推進計画周知のちらしやポスター	大型ポスターやちらしを作成し、道の駅、公民館に掲示、関係団体等に配布	
3 新	ホームページ	ホームページに「子ども読書活動推進計画」改訂版や随時活動状況の掲載	
4	イベントについて掲載の大型ちらしや広報やホームページ	子どもの読書への関心を高め、読書の楽しさを知らせる多彩なイベントを企画し、広報みやまの「図書館通信」欄やホームページに情報、状況を掲載	
5 新	意識を高めるのぼり等の作成、設置 6月11月	年2回の「ファミリー読書」月間を広めるのぼりなどの掲載	市立図書館 公民館

6 新	P T Aにおける研修会実施 年1回以上	P T Aの新家庭教育宣言で、「ファミリー読書」に焦点を当てた研修や学年親子活動のワークショップ体験等の実施	P T A
7 新	年齢に応じたサービスプログラム作成や情報発信	キッズ、中高生、保護者、高齢者などそれぞれに必要な内容の資料紹介	市立図書館

3 子どもの読書習慣を市民みんなで育てる : 読書環境の充実

(1) 家庭・地域の読書環境の整備

子どもは、日常生活の中で家族の話しかけによって言葉を覚え、自我を確立しつつ日々成長していきます。その過程で本の楽しさに気付いていくためには、最も身近な存在である家庭、保護者が積極的に子どもの読書活動にかかわっていくことが重要です。

地域では、アンビシャス広場、伝統行事など子どもの読書活動を支援する場がたくさんあります。地域で、読書活動を通してさまざまな人とのコミュニケーションを図っていくことは大変意義深いことです。また、このような場での地域のボランティアの活躍は不可欠です。研修を通じて育成を図ると共にボランティア間の交流を図り、活動の場を充実していきます。

No.	取組名・実施時期等	取組内容	担当
1 新	リビング等の本コーナー設定や家族の読み聞かせ 月1回以上	読書習慣の土台となる家庭で、ファミリー読書を進める場づくりや家族での図書館を利用する機会づくり	家庭
2 新	家族で図書館の利用などを決める家族会議	「読書」を家庭の約束10ヶ条に掲載し、具体的な取組についての話し合い	家庭
3 新	読書やボランティア等の体験や研修	公民館での読み聞かせ等の研修で、ボランティアの資質向上や新たな養成	地域 市立図書館
4 新	読書を勧める展示	公民館での読書意欲を持たせる本の表紙展示や図書館視察などの試み	地域

(2) 市立図書館の読書環境の整備

図書館は、あらゆる年齢層の人が集い、本を通じて自ら学び考え、より豊かなくらしをつくり出していく生涯学習の情報拠点です。みやま市立図書館の本館と山川及び高田地区の分館が、相互に連携し読書サービスの提供に努めています。

蔵書については、整備・充実を継続するとともに、3館の施設等を生かした特色ある蔵書構成にすること、本への興味関心を引く特設テーマの設定や関連図書等の提示、集う図書館になるような行事と本の関連の場を作り、貸出状況を高める工夫をすることが必要です。

また、本に親しむきっかけ作りで、大切な役割を果たしているのが司書やボランティアの支援活動です。さらなるスキルアップの研修会等を開催し、読書ボランティアとの協力で多分野の読書、調べ学習につながるよう読書環境づくりを積極的に行っていきます。

No.	取組名・実施時期等	取組内容	担当
1	3館の特色に応じた図書資料の場づくり	乳幼児や保護者が安心して集い楽しむ場の設定や蔵書構成	市立図書館

2	参加者増加につながるおはなし会	選書と語りかけの技能を高める研修会を開催し、チャレンジやワクワク感を生み出すおはなし会づくり	
3	想像を広げる大型掲示 年3回	読書のどきどき感を生み出す、ボランティア団体による階段側面の大型掲示	
4	好きな本探しにつなぐPOPや本表紙の提示	子どもが進んで本を手にとる見せ方、並べ方によって、絵本1冊の貸出数の増加（本の回転率を高める）	
5	配慮を要する子どもへの 充実した対応	社会福祉協議会等との連携により、点字絵本や大活字本などの本の収集	市立図書館 社会福祉協議会
6	外国語の絵本・児童書の 収集及び多文化理解	外国と日本の子どもにとって、文化の違いを理解する場としての展示	市立図書館
7	除籍整理・発注のサイクルの年2回 りサイクル	限られた書架の有効活用で、効果的な蔵書更新や定期的配架改善の実施	
8	日曜日や季節行事などの イベントや講座	図書館まつり、ぬいぐるみお泊まり会などの本への関心につなぐ行事等実施	
9	館内、館外での職員研修 年2回以上	レファレンスサービス（※13）を中心に、調べ学習の読書活動支援の研修	
10	ボランティア育成と活用	効力感を生み出すように、経験に応じた講習会や意欲づけとなる場の提供	
11	施設・設備、運営の改善	利用しやすい図書館づくりに向け、トイレなどの改修、喫茶コーナーの設置や開館時間延長の検討	

(3) 園や学校の読書環境の整備

市内の幼稚園、保育園、認定こども園の園児にとって、読み聞かせや朝の読書運動は「本好き」の子ども育てにつながる重要な園活動として定着しています。

学校においては、国語の時間をはじめ各教科や総合的な学習の時間などを通じて行われる多様な読書活動が相手に分かりやすく伝える言語活動につながり、読書による新しい発見や自信となっていくことを期待しています。学習指導要領では「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童・生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」とされており、「楽しんで読書しよう」や「読書を生活に役立てよう」とする態度の育成が目標とされるなど、子どもの読書活動の中心を学校図書館が担っていることを示しています。

しかし、進級に伴い増加している不読者の課題を捉えるとき、個の興味関心や発達段階を十分に把握して、目的意識をもった読書活動ができる支援の必要性を痛感しています。

No.	取組名・実施時期等	取組内容	担当
1	朝や昼の読書活動の継続	朝や昼の読書の時間確保と好きな本探しの時間設定	園や学校
2 新	不読者への支援	個別のリスト作成で、興味関心のある本の紹介など個に応じた量と質の支援	学校

3	読書感想画、感想文や国語科の表現物の展示	学校図書館協議会との連携で、読書活動の意欲とするため会運営や展示
4	ネットワーク活用	資料の共有化を図るために学校間のネットワークでの情報交換

(4) 関係機関・団体の連携・協力の推進

読書活動の推進を担う施設である学校図書館や市立図書館は、学校図書館法や図書館法により、それぞれ独自に事業・サービスを行うだけでなく、お互いが連携し事業を進めるとされています。学校は教育機関として、子どもの読書活動を推進し読書習慣を形成していく上で、大きな役割を担っています。市立図書館としてもこのような役割を持つ学校と司書相互の交流を深め、合同の研修会を開催するなど、より一層の連携を図っていきます。

また、乳児から高校生に関わる市役所の各課及び関係機関や団体との連携・協力で、市民みんなでみやま市の未来を創造していく子ども達への関わりを多分野から進めていくことを通して、「読書のまち」の雰囲気づくりに結びつけていきます。

No.	取組名・実施時期等	取組内容	担当
1 新	ホームページ活用講座	利用案内やイベント情報、図書検索を子どもが積極的に使いこなす学習講座開催	学校 市立図書館
2 新	利用サービスの拡大	各学校レファレンス予約の受け入れ、セット配本利用をPRし、放課後児童クラブや幼稚園や保育園等の利用の拡大	市立図書館 園や学校 社会福祉協議会
3	学校と市立図書館の連携	読書や学習活動を充実させるために、施設見学や職場体験など図書館を活用した学習の実施 学校司書部会参加や学校図書館訪問	市立図書館 学校
4 新	園と市立図書館の連携	市立図書館の支援や読み聞かせ、おすすめリスト等の活用について情報交換	市立図書館 園
5	ボランティア連絡会 年1回以上	資質向上の研修会開催や方針や行事の相互交流による情報交換	市立図書館 ボランティア
6 新	放課後児童クラブと市立図書館の連携	夏休み等の講座参加や、読書の習慣化につながるセット配本利用	市立図書館 放課後児童クラブ
7 新	市役所の他課、係との連携 年1回以上	テーマに応じて社会教育係、子ども子育て係、健康係等との連携による読書活動	市立図書館 市役所の他係
8	他の図書館との連携	児童書に関する情報提供や相談対応などの児童サービスに向けた連携	市立図書館 他図書館

(5) 計画の効果的な運営

計画の指標をもとに、三つの基本方針に基づいた取組を、PDCAサイクルで量や質の面から計画的に把握・評価していきます。そして、効果や課題をを毎年3月までに検証していきます。進捗状況に合わせて、改善策の具体化を図り、指標達成に結びつく実践を計画的に行っていきます。